

城陽市障がい者自立支援協議会

第7回 聴覚言語障がい支援部会報告書

報告者 部会長 聴覚障害者生活支援センター は一もにい 山崎 伸治
標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 24 (2012) 年 5 月 18 日 午前 10 時～12 時
場 所	城陽市役所 第 1 会議室
出 席 者	城陽市福祉課 相談支援事業所・は一もにい 手話通訳者の会・要約筆記奉仕委員会・手話サークル・要約筆記サークル 城陽ろうあ協会・城陽市難聴者協会
検討課題	2012 年(平成 24 年)度 聴覚言語障がい支援部会について

【議事録】

1. 委員の確認

○当事者委員

昨年度途中より参加してもらい意見を頂いたが、今年度は一年間継続して参加できる方を当事者団体から選出してもらった。(ろうあ協会から 1 名、難聴者協会から 2 名選出)

他の委員は全員継続。

2. 平成 24 年度 聴覚言語障がい支援部会について

(1) 昨年度提案された課題の具体化

①『支援マップ』の作成(昨年度より継続)

②聴覚障がいのある子どもへの支援。

障がいのある子どもの支援は、専門のサポート機関への通園や、支援学校への通学で地元から離れてしまうことが多い。地元で親子がともに育ちあう環境づくりに向け検討。今年度は下記の『あそびのひろば』『親子手話教室』を実施する予定。

*『あそびのひろば』(民生児童委員協議会主催行事への参加)

民生児童委員協議会が各地域で開催されている『あそびのひろば』に、出前講座のような形式で部会から委員が出向き、子どもに手遊びや、馴染みのあるアニメの主題歌を手話歌で表現する。楽しみながら手話や身振りに自然とふれて聴覚障がいの啓発を行う。

* 『親子手話教室』（7月下旬～8月中旬 3回実施）

夏休みの長期休暇を利用し、城陽市在住の親子を対象とした『親子手話教室』を実施。体験を通して障がいの理解や啓発を目的とする。参加する親子の障がいの有無は問わない。今後、手話だけでなく要約筆記の親子体験教室も検討する。

（2）今年度部会で協議したい意見（委員から）

要約筆者、手話通訳者などコミュニケーションを支援する人材が不足、また高齢化して、後継者養成が急務の課題になっている。

毎年実施されている養成講座の中で、今年度「要約筆記基礎講座」は受講者がなかなか集まらず、関係者が繰り返し呼びかけた。

今後も後継者養成が容易ではないことが想像されるので、部会で後継者養成を課題として取り上げてほしい。

市役所でも窓口での対応に筆談（要約筆記）が必要な場面があり、職員研修に組み入れるなど検討して欲しい。